

ギャラリー展示

眞田岳彦 Xibu展 -備後柿渋の衣服-



Out is Covered 包まれた外部



Two Holes 二つの穴



A Line Gathers and Loosens-3 1本の線は集まりそして解けるNo.3

■期間: 2016年6月23日(木)~7月26日(火) 無休 / 入場無料

■時間: 10:30~19:30(最終日は17:00まで)

■場所: オリエンタルホテル広島 1階 オリエンタルデザインギャラリー(広島市中区田中町6-10)

■展示によせて

「糸は集まり、糸に戻る」

一本の糸は、集まり形が生まれ、生命を包み、人を生み、そして、一本に戻る

柿の実からつくる「柿渋」は、今から1000年以上昔の平安時代から衣服・生活用具等を使用されてきたと言われていています。広島県産の「備後柿渋」は特に質が良く「日本三大柿渋」と呼ばれ、染型紙や養蚕、紙衣、清酒製造、醤油製造、薬にも利用され、瀬戸内の海の暮らしにおいては漁網を守る塗料や染料として重要でした。本展では、「備後柿渋」を使い造形作品を制作、また限定プロダクトを発表します。同時に「柿渋」資料の紹介やトークイベントを行い、広島風土と技が育ててきた豊かさを来場者と共に考えます。

—眞田岳彦

■記念講演会

日時:2016年6月23日(木)18:30~19:30
場所:オリエンタルホテル広島 3階チャペル
出演:眞田 岳彦(造形家)
定員:80名(参加無料・要予約・先着順締切)

■オープニング・レセプション

日時:2016年6月23日(木)19:30~20:30(参加無料)
場所:オリエンタルホテル広島 1階ロビー

■お問い合わせ・お申し込み

オリエンタルデザインギャラリー TEL:082-240-9463(直) (受付時間 10:30~19:30)

■作家プロフィール



眞田 岳彦 Takehiko Sanada [造形家]

1962年東京生。桑沢デザイン研究所研究科卒業。幼少より画家であった父に絵画を習い、ISSEY MIYAKE INC.にて衣服を学ぶ。92年に渡英。北極圏グリーンランド滞在を経て、彫刻家リチャード・ディーコンの助手を務め造形を学ぶ。95年独立。SANADA studio inc. 代表。女子美術大学特任教授。東北芸術工科大学客員教授。眞田塾主宰。七月七日会主宰。

岩手県小岩井農牧及び周辺地域に於いてホームスパンと日本の羊毛文化をテーマにした「ウール」プロジェクト。東京都せたがや文化財団生活工房に於いて木綿の栽培を通して生活の豊かさを考える「コットン」プロジェクトほか多数のフィールドプロジェクトを制作開催。また「エルメス」に於ける個展開催や森美術館「六本木クロッシング展」、良品計画アトリエムジに於ける「無印良品の白いシャツ展」の作品及び展覧会ディレクションなど、国内外で多彩な活動を企業や美術館と開催。03年から人財育成のための無償塾の設立運営や、04年からは震災時の「心のケア」を臨床心理士や精神科医の協力のもと衣服の開発に取り組み、これまで各地公共施設に2000枚を超える寄付を行う。

「衣服／繊維」プロジェクトを通して「日本の衣服」をコンセプトに新しい日本の地域づくり、物づくり、人づくり等、社会貢献・教育活動に取り組む。

著作に『IFUKU衣服』(六耀舎)、『考える衣服』、『ひらく衣服』(スタイルノート)。

【本イベントに関するお問合せ先】

オリエンタルホテル広島 セールス&マーケティング部 PR TEL:082-240-9462 (直) FAX:082-240-9460
〒730-0026 広島市中区田中町6-10

山根 春菜 E-mail:haruna.yamane@oriental-hiroshima.com

※画像のデータをお送りいたします。上記電話番号またはメールアドレスまでご連絡ください。